

教員名:井上一郎	教員所属学科:マス・コミュニケーション学科
科目名:メディア産業論 I	
<p>回答結果は下記の通り(65人が回答)(5点満点) 教員を評価する設問 9-18 の平均点は 4.3 点。項目別に平均 4.3 点を上回ったのは下記。・多くの知識を得られることができた(4.4 点)・板書や機器を使った表示文字の見やすさ(4.4 点)・授業開始の時間が守られてる(4.5 点)・教員の熱意(4.4 点) 項目別に平均 4.3 点を下回ったのは下記。・授業内容のわかりやすさ(4.1 点) メディア産業論 1 では、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどの歴史からはじまり技術やビジネスモデルまで情報量が多いためなかなか消化が難しいと考えられる。視覚教材の強化とテキストの事前アップなどより一層わかりやすい授業を心掛けたい 尚、成績は、期末試験 60%、平常点 40%で、平常点は、「講義内で行うミニ課題」「講義内での質問点」「リアクションペーパー」から評価している。質問点は、講義内で学生が、自発的に質問をした場合に、1 回あたり 2 点を付与するものである(但し加点は 1 講義 2 回まで)。アンケートには、この質問点の加点をやめてほしいという記述があったが、講義内において学生が質問することは、講義の活性化と知識の共有という点から講義への貢献と認められるので今後も継続する予定である。</p>	

教員名:井上一郎	教員所属学科:マス・コミュニケーション学科
科目名:マーケティング論 I	
<p>教員を評価する設問 9-18 の平均点は、4.4 点。項目別に平均 4.4 点を上回ったのは下記。・多くの知識を得られることができた(4.6 点)・話し方が明確だった(4.6 点) 項目別に平均 4.4 点を下回ったのは下記。・教材、板書、専門用語の説明。(各 4.3 点) スクリーンに映す文字の大きさや専門用語の説明を身近な事例に置き換える工夫は行っているが、より一層わかりやすい説明を心掛けたい。</p>	

教員名:伊藤雅之	教員所属学科:基礎・教養教育センター
科目名:外国史学概論	
<p>この講義はシラバスに掲示した時代やトピックについて大まかな流れや関連用語をレジュメや口頭で説明し、また関連する史料を紹介しつつ、最後に 10-20 分程度を割いて、学生の皆様にその日の講義に関連する課題に取り組んでいただくという形で進めました。全 5 問からなる課題の間 4 と問 5 は毎回、その日の主題やそれに関連することで現代でも重要と思われる事項について、説明あるいは意見を理由と共に述べるよう求めるもので、自由記述欄にもありましたように苦労した方も多かったかと思います。ただ講義の中でもお知らせしましたように、これは単純に取り上げたトピックについて確認し、また各人の思うところを書いていただくという以上に、学生の皆様に歴史的、あるいは時代を超えて問題となり得るテーマについて自分なりに考察し、かつそれを他者に説明する練習をしていただくという狙いがあります。自由記述欄に書いてくださった方も述べていることですが、こうした課題をきっかけに外国史や歴史全般、そして現代世界にまつわる諸問題についてより真剣に向かい合っていたいただければと思います。他方で、自由記述欄には「先生が話をして、学生はそれを聞くだけだった」というご批判もあり、またアンケートの平均評価欄を見るに、授業内容や用語の説明に不十分なものを感じるという方もいらっしゃいました。確かに課題に取り組んでいただくまでの時間に関しましては、さらなる工夫を考える必要があるかもしれません。また説明が不十分という点に関しまして、配布するレジュメで比較的詳しい説明をあらかじめ行っていることから、口頭でのそれがその補足程度になってしまったところもあったように思われ、これにつきましても改善の余地があると思います。もう一つ述べておきたいのは、学生の皆様の授業への取り組みについてです。授業を受ける際には、教員が口頭で伝えている内容もレジュメの余白などにメモしておくことを心掛けておかれた方がよいと思います。この授業を含め講義の多くは、学生の皆さんが直近に抱える諸課題に対応するだけでなく、科目が扱うテーマについて可能な限り多くのことをお伝えし、またそれに関する知見を自分自身でもより深めていけるようにしようという意図を、多分に含みつつ構築されています。学生の皆様におかれましても、こうした授業をより能動的に活用していただければと思います。</p>	

教員名:川村幸夫	教員所属学科:基礎・教養教育センター
科目名:英語 I (表現)	
<p>評価平均はほぼ予想通りでした。自由記述はほとんどが肯定的意見で、やや意外な驚きでした。受講生たちの英語に対する興味が高まったことに満足しています。人前での発表が苦手な学生に対する配慮も必要であったと思います。ただし、言語学習は意思疎通の方法を身に付け、コミュニケーションに慣れることでもあります。今後は、このあたりのバランスに気をつけ行きたいと思います。</p>	

教員名:川村幸夫	教員所属学科:基礎・教養教育センター
科目名:米文学史	
<p>評価平均が予想以上に高く、満足しています。アメリカの歴史の流れの中でアメリカ文学を知ることが目標に行ってきたので、「歴史を知れてよかった」というコメントは、その目的を達成することができた証であると思います。事前準備や復習に関しては、全科目平均とほぼ同じで、低いのが気になりました。今後は、事前事後学習がスムーズに行える工夫をしていきたいと思っています。</p>	

教員名:田辺江美子	教員所属学科:基礎・教養教育センター
科目名:日本国憲法 水曜日 4時限	
<p>本講義のアンケートの数値は、大部分の設問についておおむね全学平均とほぼ等しい評価でした。ただし、1シラバスをよく読んだ、2授業時の受講態度、9授業内容のわかりやすさについては、ごくわずかですが全学平均から下回っていました。1については、ガイダンス時にプリントアウトと解説するのみではなく、途中回でも確認したいと思います。9については、本講義の受講生が1年生から4年生にまで多岐にわたることを考慮すると、評価 4.0 は、妥当であると思います。日本国憲法は、教職課程の必修科目でもあり、幅広く、また内容深く学習する必要があります。法的用語はなじみがなく、憲法の内容理解も決してたやすいものではなかったと思いますが、本クラスでは、多くのみなさんが一生懸命取り組み、期末テストのみならず課題にも努力してくださいました。「楽しく学べて良い授業でした」というコメントを複数いただきましたが、こちらこそ学生のみなさんに感謝いたします。「同じ話題について注時間費やす傾向あり」というコメントもありました。憲法の性質から、どうしても人権擁護の結論にならざるを得ないのですが、今後は冗長にならないよう十分に配慮いたします。</p>	

教員名:田辺江美子	教員所属学科:基礎・教養教育センター
科目名:日本国憲法 水曜日 3時限(こどもコミュニケーション学科)	
<p>本講義のアンケートの数値は、大部分の設問についておおむね全学平均とほぼ等しい評価でした。ただし、1シラバスをよく読んだ、9授業内容のわかりやすさ14専門知識の説明については、全学平均から下回っていました。1については、ガイダンス時にプリントアウトと解説するのみではなく、途中回でも確認したいと思います。9および 14 については、本講義の受講生はこどもコミュニケーション学科の1年生であったことを考慮すると、評価 3.5 および 3.8 は、妥当であると思います。日本国憲法は、教職課程の必修科目でもあり、教諭免許を取得するみなさんは、幅広く、また内容深く学習する必要があります。法的用語はなじみがなく、憲法の内容理解も決してたやすいものではなかったと思いますが、本クラスでは、多くのみなさんが一生懸命取り組み、期末テストのみならず課題にも努力してくださいました。「憲法は難しい感じがしましたが、ちゃんと向き合ってみるとわかりやすいものがあり、これからの知識に必要なようでした。ありがとうございます。」という趣旨のコメントを複数いただきました。こちらこそ、受講生ひとりひとりに、感謝いたします。</p>	

教員名:福田 一彦	教員所属学科:人間心理学科
科目名:基礎ゼミナール	
<p>アンケートで基本的に全学平均よりも低い傾向があったのは、積極的に予習復習を行なったかなどの、学生自らの取り組みに対する物が主たるものだった。授業の内容に関する評価としては、唯一「授業は何を目的としているのかが、明確に理解できた」であったが、1年生の科目であり、基礎ゼミナールの内容が、2, 3, 4年生でどのように生かされるのかが、1年生では理解しにくかったという側面と、将来必要とされるであろう様々な講義内容を、一つの授業の中で行なうので、全体としての目的が分かりにくかったというのもあったのではないかと思う。</p>	

教員名: 福田 一彦	教員所属学科: 人間心理学科
科目名: 心理学英語 I	
<p>全体として自分の努力に関する項目の評価が学内平均より低いという傾向があった。授業内容に関するもので、やや低い傾向があったのは「授業内容は分かりやすいものだった」であるが、心理学分野の英語文献の講読に必要な英語の読解能力をつけさせるのが目的の授業であるので、学生の能力よりも少し上の水準で行なう必要があり、分かりやすいこと自体が必ずしも良い授業とは限らないので、現在のレベルを下げないほうが良いと考える。</p>	

教員名: 福田 一彦	教員所属学科: 人間心理学科
科目名: 睡眠の心理学 I	
<p>評価が全学平均よりも低かったのは、主に学生自身の努力の自己評価などに関する項目だった。唯一、内容に関しては「授業内容は分かりやすいものだった」が全学平均よりも僅かに低かったが、これについては、分かりにくく授業を行なっている訳ではなく、少しだけ難しい内容だということだと思われるので、難易度については、現状を維持するべきであると考えている。</p>	

教員名: 丸聡弘	教員所属学科: 基礎・教養教育センター
科目名: 英語 I (表現)	
<p>この授業の評価平均は、相対的に言って、決して悪くはありませんでした。しかしながら、いずれの評価項目においても満点ではなかったことは確かであり、だとすれば、当然のことながら、私は、今後も引き続き、授業を改善していくよう努力していかねばなりません。ですが、どのようにすれば皆さんにとって価値ある授業ができるのか、ということを考えるための手がかりが、ほとんど無いのです。それぞれの評価項目の数値からは「まずまず良い授業であったのだろう」ということしか分かりません。だからと言って、自由記述欄を参考にすることもできない。なぜかと言えば、コメントを寄せてくれた学生は1人のみだったからです(最高の授業でした、と書いてありましたが)。学生の皆さんには、自由記述欄に、建設的な(自分のため・他者のためになる)コメントを書くことを、強く御願ひしたいです。このアンケートというのは、教員を裁くために実施しているものではないのです。そうではなくて、「皆さんのために」このアンケートを実施しているのです。全ての教員が、このアンケート結果を、しっかりと受け止めているとは言いません。しかし、アンケート結果を踏まえて、皆さんにとって最適な授業を実施しようと努力されている教員が多くいることは疑いない。御願ひですから、「面倒くさい」などと思わずに、自由記述欄に自らの考えを書くようにして下さい。皆さんに期待しています。</p>	

教員名: 山本隆一郎	教員所属学科: 人間心理学科
科目名: 健康カウンセリング概論	
<p>この科目のアンケート結果は全体の平均としては、昨年と同程度であったが、「予習・復習の取り組み(3.9)」、「授業の評価の資格(3.9)」に関してはと低かった。また、授業に対する熱意に関しては4.6点と最も高かった。この結果から、授業内での取り組みに関しては、受講生も前向きに取り組んでいたように思うが、自発的な勉強の促進に繋がっていなかったと反省している。本授業の内容は、健康を取り扱うものであり、「勉強すると同時に自分の問題を振り返った」という意見もあったことから、日常生活において振り返れるような機会を今後の授業では意識したいと考える。</p>	

教員名:山本隆一郎	教員所属学科:人間心理学科
科目名:基礎ゼミナール	
<p>この科目は、1年生の必須科目であり、ゼミ形式の授業科目であった。評価や自由記述を見ると反応が二極化していた。こちらも教員の熱意に関してはや明確さなどの授業自体は、評価が高かった一方で、知識の増加や授業目的に関しては点数が低かった。また、自由記述を見ても、教員に対する評価としては「熱意」を評価するものなどもあったが、「周囲との仲が深まる工夫が少なくつまらなかった」という評価もあった。基礎ゼミの趣旨からして「楽しい」も重要な要素であると思う。しかし、あくまで単位が付与される、江戸川大学の学生としての学びの姿勢を身につける「授業」である。また、「楽しい」=「よい授業」であるわけではない。良くも悪くも、私の熱意や態度に関しては肯定的な評価を拝受したが、そもそも授業で快感情があったかどうかではなく、授業を基に学生として何を身につけようと自分から動き、何が身についたかを考えてほしい。</p>	